

湘南の新窯元 4



オブジェを配置した「縄文の散歩道」に立つ黒川さん



1



2



3

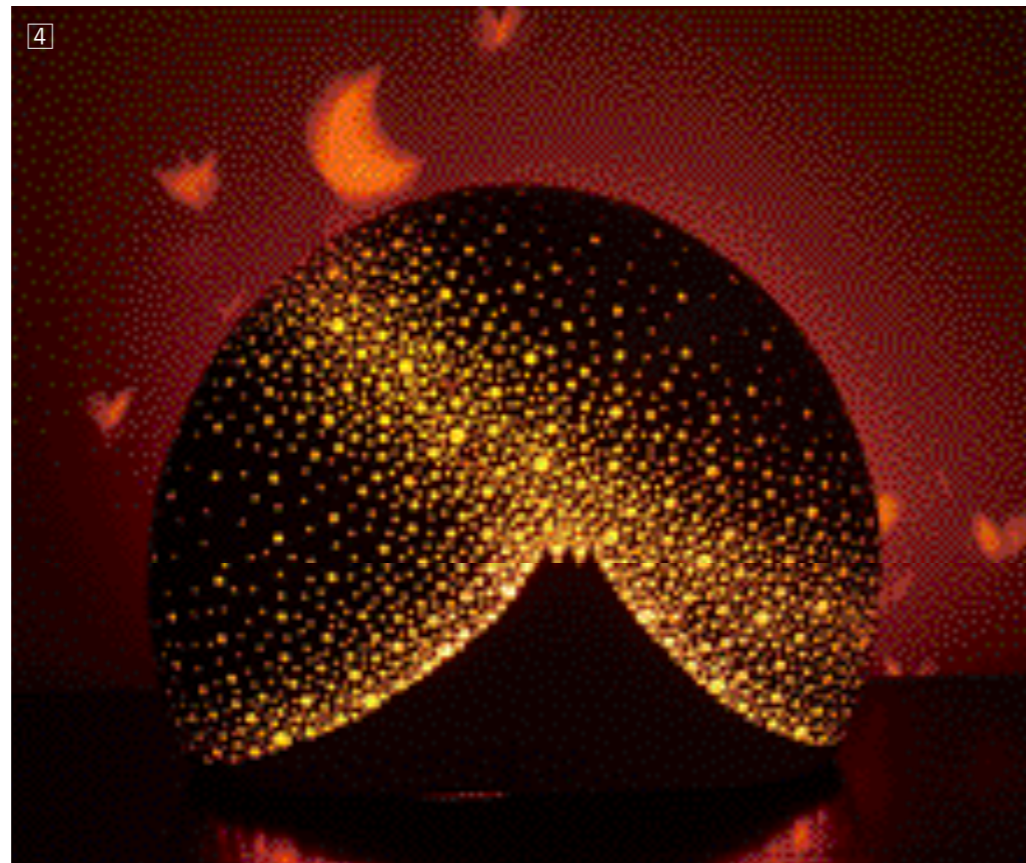
- ①「流水文オブジェ」 高さ56cm、23×16cm
- ②「流水文花器」 高さ46cm、40×18cm
- ③「唐津和紙染大皿」 高さ5cm、径45cm
- ④「あかり『富士山と月』」 高さ18cm、40×33cm
- ⑤「唐津和紙染八角鉢」 高さ8cm、径18cm
- ⑥「唐津和紙染鉢」 高さ9cm、径16cm



5



6



4



文様には金彩を施すことが多いオブジェ

箱根・仙石窯 黒川 淳さん

越前回帰のやきものづくり

就職してサラリーマンになる予定だったが、旅先の唐津焼の窯元で陶芸家をこころざすことになった福井生まれの黒川淳さん。7年間後に、箱根の仙石原に窯を築いて独立した。作っているのは、縄文土器風のオブジェ、食器や花器などの生活陶器、それに趣向をこらした灯りのオブジェ。傾向やテイストがかなり異なるが、どの作品も生まれ故郷・越前と強い糸で繋がっている。

PROFILE

1955年 福井に生まれる

1979年 玉川大学卒業

佐賀・小山路窯の江口勝美氏に師事

1985年 佐賀県農業試験場で研修する

1986年 箱根町仙石原に築窯

1987年 銀座・ギャルリクスで初個展

1988年〜小田原、沼津、福井、新潟、高島屋(日本橋、二子玉川、横浜)、帝国ホテル 爾々ギャラリーで個展

西部工芸展、西日本陶芸展などで入選・入賞



ギャラリーが併設されている仙石窯